

平成 29 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	19	学校名	天竜特別支援学校	校長名	那須 浩二
------	----	-----	----------	-----	-------

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と課題・
ア	児童生徒理解の上に立った、人を大切にする授業実践と生徒指導、安全管理。	各研修を児童生徒理解と授業づくりに役立てた教員 100%	年度末職員学校評価の結果 96%	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外部講師から話を聞き、児童生徒理解が深まった。 ○事例検討研修で、学年を超えた話し合いを行い、児童生徒理解を深めることができた。 ○児童生徒の配慮事項一覧を定期的に報告した。 ○講座の実施により情報モラルに対する理解が深まった。 ・研修課と自立活動課と連携し、自立活動の取り組みを外部へ発信する。 ・緊急対応事案について再発防止策を報告し意識づける。定期的に配慮事項を各学部で確認し、共有する。 ・情報モラル講座は定期的に開催する必要がある。
		学校が安心して過ごす場所であると答える児童生徒 100%	児童生徒アンケート結果 91%		
		児童生徒の理解が深まり、校内事故 0にする。	年度末職員学校評価の結果 100% 校内事故 1 件		
		情報モラルに対する理解が深まったと答える児童生徒 100%	情報モラル講座実施後のアンケート結果 100%		
イ	地震対応行動(避難、保護、引渡し)の確立。	マニュアルに基づいた避難や引渡し訓練ができたと答える教員 100%	年度末職員学校評価の結果 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○マニュアルに基づいた避難訓練や引渡し訓練が実施できた。 ・南海トラフ地震に関連する情報への対応についてマニュアルを策定する。 ・保護者への一斉メールの受信状況の確認をし、安否確認のできる体制を整える。
		引渡し方法が分かりやすいと答える保護者 100%	保護者アンケート結果 100%		
ウ	短期在籍児童生徒及び未学習の児童生徒への学習指導と保護者への支援体制の充実。	未学習や特性をふまえた指導案の作成と実践ができた教員 100%	年度末職員学校評価の結果 90%	B	<ul style="list-style-type: none"> ○事例対象児童生徒を設定し、未学習や学びの特性をふまえた支援を検討できた。 ○児童生徒の特性を踏まえた授業づくりが学習に対する意欲の向上につながった。 ○個々の実践の紹介が ICT 機器の活用につながった。 ・未学習への対応として、学習課題と評価規準を明確にした授業を実践する。 ・外部とのネットワーク環境を整え、ITC 機器の活用の幅を広げたい。
		学習に対する意欲や興味が高まったと答える児童生徒 100%	児童生徒アンケート結果 (小 90% 中 100% 高 54%)		
		ICT 機器の活用が昨年度より増えた教員 95%以上	年度末職員学校評価の結果 89%		

		作成した個別の教育支援計画を理解し協働内容を実践できたと答える教員と保護者 100%	年度末職員学校評価の結果 94% 保護者アンケート結果 88%	○保護者と学校の協働内容を考え、保護者支援を行った。 ○連絡ノートや電話、個別面談で日常の児童生徒の様子を学校から発信することができた。 ・保護者、学校が児童生徒理解を深め、状況に応じて支援計画の改善をし、関係機関への発信を行う。 ・面談や参観の機会を設け、保護者のニーズを吸い上げる機会を設定する。
		学校や子どもの様子がよく分かったと答える保護者 100%	保護者アンケート結果 96%	
エ	豊かな表現力を引き出す重度重複障害児童生徒への教育の充実。	1・2病棟児童生徒全員の事例研修を実施する。 学習会で学んだことを生かして子どもの表出を引き出した教員 100%	児童生徒全員の事例検討会を実施。 年度末職員学校評価の結果 100%	A ○事例検討会が自立活動の指導目標と手立てを考える上で役立った。 ○子供の表現力を引き出すための教材学習会では支援方法を全員が検討できた。 ・アセスメントや授業づくりのための学習会を行う。
オ	個別の教育支援計画を根拠とした連携体制の確立。	病院・保護者・原籍校・本校の役割分担を明記した個別教育支援計画を作成した教員 100% 個別の教育支援計画を基にしてスムーズな移行ができた児童生徒 100%	年度末職員学校評価の結果 96% 年度末職員学部評価の結果 91%	B ○支援計画を基に、カンファレンスや支援会議で、関係機関の支援内容を整理、共有できた。 ○個別の教育支援計画における役割分担により、復帰支援通学中の原籍校との連携はできた。(小中) ・関係機関が支援内容を具体化できるように転籍後のフォローアップが継続的に必要である。 ・進路指導課や教育支援課が連携し、ケース検討会を行い、支援計画の充実を図る。 ・移行先にとって分かりやすく、必要とする情報が盛り込まれるようにしたい。
カ	みゅうの丘協議会と連携した、特色と魅力のある学校づくり。	(高)厚生会、病院での学習、実習年間 30 回以上 (小中)みゅうの丘の資源を活用した学習、活動の実施 5 回以上 「みゅうの丘講座」等の共同開催 1 回以上	実施回数 (小) 11 回 (中) 3 回 (高) 36 回のトライアル実習・販売体験等 「みゅうの丘見学ツアー」を 1 回実施。	A ○みゅうの丘の資源を活用は、児童生徒にとって安心できる場であり、校外での体験活動の充実につながった。 ○地域の小学生を対象とした「みゅうの丘見学ツアー」を実施することができた。 ・総合的な学習の時間の年間計画や時間割を見直し、資源活用を計画的に実施する。 ・地域に発信するための「みゅうの丘講座」の開催やホームページの充実を図る。
キ	高等部入学選考のあり方の検討と試行へのみちすじづくり。	検討委員会を開催し、あり方の試案を作成する。	高等部会 2 回、課長会 1 回実施。 検討委員会へ紙面にて提案。	C ○高等部会、課長会等で意見を出し合い、本校高等部の特徴や生徒の課題等を共通理解することが出来た。 ・検討委員会を定期的に開催し、様々な立場からの意見を集約していきたい。